

平成25年度研究成果報告書《平成24・25年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	36	都道府県・指定都市名	徳島県
都道府県、地域 幼稚園・学校名 (園児，児童数)	徳島県、藍住町 藍住町立藍住北幼稚園・藍住北小学校 (164人，482人) 藍住町立藍住南幼稚園・藍住南小学校 (200人，647人) 藍住町立藍住西幼稚園・藍住西小学校 (163人，590人) 藍住町立藍住東幼稚園・藍住東小学校 (132人，403人)		

(本研究に係る問い合わせ先)

名称，所在地：藍住町教育委員会，徳島県板野郡藍住町奥野字矢上前52番地1

電話番号：088-637-3128

研究内容等を閲覧できるホームページの URL：http://www.town.aizumi.tokushima.jp/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：2 (2) 幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続

○研究のキーワード

- ・「育てたい子供の姿」の共有 ・幼稚園教育と小学校教育についての相互理解と充実
- ・接続期における教育課程や指導の工夫 ・幼小合同活動の充実

○研究成果のポイント

- ・「段差」を踏まえた指導の工夫と接続カリキュラム「藍住モデル」の作成
- ・「育てたい子供の姿」を共有することによる見通しをもった指導
- ・合同活動カンファレンスによる教師の意識の変化と活動の充実

【研究の目的， 研究内容】

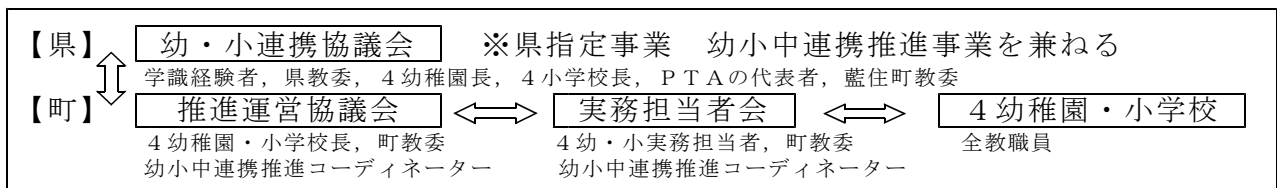
(1) 研究主題

幼稚園教育と小学校教育の滑らかな接続の在り方について
 ～学びの芽生えを育て、自覚的な学びへとつなぐ教育課程や指導方法の在り方について～

(2) 研究主題設定の理由

近年，藍住町では核家族化や急激な人口増による地域の共同体意識の希薄化による子供の育ちの変化がみられ，様々な問題が指摘されるようになった。そこで，幼稚園から小学校8年間の「学び」や「育ち」を見通した教育実践を展開することによって，子供たちのかかえる問題を解決したいと考えた。幼・小で「育てたい子供の姿」を共有し，その実現に向けて子供の発達と学びの連続性を踏まえ，幼稚園から小学校へと滑らかにつなぐ教育課程や指導方法の在り方について探り，実践する。幼稚園では「学びの芽生え」を意識した保育の充実を図り，小学校では「学びの芽生え」を生かし「自覚的な学び」へと移行していく指導を充実させる。この接続期の指導の在り方を探ることが，心身ともに健やかな藍住町の子供の育成を図ることにつながると考え，本主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組の経過

平成24年度	1. 研究内容・方法・組織等についての協議と共通理解 2. 幼小連携・接続の理念や先進地の取組についての研修 3. 各園・校における研究推進 ・研究計画作成・合同研修会や相互参観の実施 ・「育てたい子供の姿」共有 ・交流計画の見直しと実施 ・保護者アンケートの実施と集計 ・スタートカリキュラム試案作成と実施 ・接続カリキュラムの試案検討 4. 合同研究会の実施と視学官・教科調査官による指導 5. 24年度取組成果の検証と25年度取組に向けての協議
平成25年度	1. 24年度研究成果の共有と25年度研究方針についての協議，共通理解 2. 各園・校における研究推進，実務者会における取組報告と研究推進に係る協議 ・「成長に必要な段差」「配慮の必要な段差」を踏まえた実践と検証，方策共有 ・合同活動やカンファレンス充実のための方策 ・意識の変化の共有 ・接続カリキュラム作成の考え方についての協議，試案の作成と実施，検証

- | |
|----------------------------------|
| 3. 合同研究会の実施と教科調査官による指導 |
| 4. 国研指定校事業研究協議会，徳島県教育発表会における成果発表 |
| 5. 2年間の研究成果の検証と指定終了後の取組についての協議 |

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

〈研究の内容と方法〉

- ① 8年間を通して「育てたい子供の姿」を共有し，育ちを見取り，見通しをもった指導を行う。
- ② 幼稚園教育と小学校教育についての相互理解を図り，それぞれの教育の独自性と発達や学びの連続性を踏まえた指導の充実を図る。
- ③ 子供の発達や学びの連続性を踏まえ，接続期における指導の在り方を探る。
- ④ 幼・小合同活動を実施し，互惠性のある活動における子供の育ちや学びを検証し，合同活動を充実させる。

〈研究を進める上での工夫点・特色等〉

- 町内4園・4校の特徴を生かした取組と成果の共有による町全体の研究推進
- 「段差」についての協議を踏まえた取組と接続カリキュラム（藍住モデル）の作成
- 中学校を含む取組（県指定幼小中連携推進事業）と連携推進コーディネーターの配置

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果と課題

〈研究成果〉

○ 「段差」についての協議から「段差」を踏まえた指導の工夫

生活の流れや学び方の変化等による幼小間の段差は，不安や緊張を生むが，乗り越えれば成長を実感できる。子供が乗り越えられる段差は子供の成長にとって必要な段差であり，乗り越えられない段差に対する配慮が必要であることを共通理解した。不安の軽減や小学校生活への意欲の面から入学当初の指導を見直し，授業時間の弾力的運用や幼稚園での生活を踏まえた指導，学習に対する期待感を大切にしたい授業展開，個人差への対応等を行った。家庭との連携を図ることで，より効果をあげた。

○ 「育てたい子供の姿」の共有と見通しをもった指導

協議の中で気付いた「伝え合う力」の捉えや指導方法の違いを踏まえ，「伝え合う喜びが感じられる生活」を幼小でつないだ。幼稚園では「言葉で伝えたいと思える直接体験や感動体験」を大事にし，言葉の育ちを見取り支えることを考えた。小学校では幼稚園での指導を受け，体験を大切にしたい指導や教材の工夫，一人一人の学習経験に応じたきめ細かい指導を行い，成就感や達成感を味わうことができるようにしながら，学習指導要領に示されたねらいと内容を達成できるように考えた。「伝え合う力」の育ちに加え，児童の学習に対する安心感や期待感が感じられるようになった。

○ 合同活動カンファレンスによる教師の意識の変化と活動の充実

年間計画の見直し，指導案や見取りシートの工夫，カンファレンスの充実により，互惠性のある合同活動になるように取り組んできた。特に事後のカンファレンスでは，活動の見取りや今後の指導に関する幼小の考え方の違いに気付き，互いに違和感を覚える場面も多かった。「子供にとってどうか」をよりどころに話し合い，回を重ねることで，互いの指導の良さを引き出しながら活動を充実させ，理解も深まっていった。

○ 接続カリキュラム「藍住モデル」の作成

「藍住モデル」として，5歳児後半から1年生前半までを一つの表に表した。各幼小で話し合い，接続期に何を育てつなぐかを明確にしながら作成し，視点や項目は子供の実態やねらいによって独自性をもたせた。3つの自立，伝え合う力，かかわる力，基本的な生活習慣，意欲や期待等をつなぐ項目としている。「段差」の捉えや育てたい子供の姿，合同活動も織り込み，滑らかな接続に関する包括的なカリキュラムとなった。今後，実践と検証を重ねていく必要はあるが，取組の成果であり指針となった。

〈課題〉

- 「接続カリキュラム」を基にした接続期の実践と検証，改善の積み重ね
- 全ての教職員の発達や学びの連続性に対する理解と，それを踏まえた指導力の向上

(2) 研究成果の意義等

- 「育てたい子供の姿」共有による8年間の見通しをもった指導の可能性
- 「段差」の捉えを反映させた「接続カリキュラム（藍住モデル）」の実効性

(3) 指定期間終了後の取組

- 研究成果を踏まえた実践と検証，充実に向けた改善，県内外への研究成果普及

